
The 漫才

T F E I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The 漫才

【コード】

N6904Z

【作者名】

T F E I

【あらすじ】

漫才を永遠やります。

entry No. 4502 ローレンシウム

『では登場してもらいましょー！ローレンシウムですー！』

(パチパチパチパチ)

「どうも〜ローレンシウムです」

「どうも〜ローレンシウムです」

「同じ事言つなよー!!」

「同じ事言つなよー!!」

「……じゃあとりあえず私佐藤とコイツアミノ酸で漫才をやっ
ていくわけなんです」

「じゃあとりあえず私佐藤とコイツアミノ酸でやっていくわけ
なんです」

「いやお前佐藤じゃないだろー！そして俺アミノ酸じゃないだろー！」

「恥ずかしいんだよ！何だよ芸名アミノ酸って！一体誰が付けた
んだよー!!」

「オメエだよ！ウツセーんだよー!!黙つとけー!!」

「……………」

「静かになったところで漫才をやっていくんですけども」

「……………（カチカチ）」

「12月っていえば何ですかって何携帯いじくってんねん!」

「……………（カチカチ）」

《携帯の画面》

黙れって言ったから暇だったしソーシャルゲームの体力が回復してたっばいから実行してた

「だからと言って舞台上で携帯いじくん!仕事じゃ!」
「つーかしゃべれ!」

「こつこついう事をブレるって言つんですよ、お客さん」

「うるせーよ!」

「で12月といえばサーフィンなわけなんです」

「先行くなよ!」
「つーか12月は冬だよ!なんでサーフィンなんだよ!」

「南半球は夏だが?」

「ここは北半球だ！北半球の話をしろや！！」

「はいはい、じゃあ12月といえばハワイなんですが」

「WHY!？」

「いや俺も知らん」

「じゃあ言つなよ！！」

「で12月と言えば冬至なわけですが」

「確かに12月だが俺はもう少し後のイベントについて言っ
て欲しい」

「注文多いなあ、で12月といえば晦日なんですが」

「何故あえて晦日!？せめて大晦日って言えよ！！んで行き過ぎ
！」

「(チツ)リア充共が信じてもないキリスト教に振り回される日
だろ?」

「素直にクリスマスって言えよ!!」

「んで?クリスマスがどした?」

「いやね、クリスマスに彼女と一緒にデートしたいじゃないですか
」
「俺彼女いないし関係ねーよ」

「仮の話だ！やる気をだせアミノ酸！！お前の元気の源は？」

「アミノ酸！！！」

「元気百倍？」

「アンパンオン！！！」

「100パーセント？」

「勇気！！！」

「うし、彼女欲しいか！！！」

「欲しい！！！」

「なら俺のデートコースを考えてくれ！！！」

「知るか！！俺の彼女はゲームの中だ！！！」

「ラブ〇ラスじゃねーか！！！」

「凜〇は俺の嫁！！！」

「それこそ知るか！！現実を見る！！っ！か頼むから漫才をしてくれして下さいお願いします！！！」

「仕方ないなあ、で？まずハワイで待ち合わせるところからですね」

「だから先行くなよ！つーかハワイで待ち合わせって何だよ！ここでハワイ出してくんじゃねーよ！！」

「じゃあ南半球のどこで待ち合わせをすればいいんだ！」

「だから北半球だつってんだろ！！お前の頭にはハワイと南半球しか無いんか！！つーかそんな壮大な場所じゃなくてだな、時計台の前とかだな、そういう場所だよ」

「じゃあトイレの前だな」

「全然ロマンチックじゃねえよ！！絶対その場で別られるよ！！」

「大丈夫だ。俺の彼女はずっと下痢だからな」

「そいつの体が大丈夫じゃねえ！！」

「冗談はさておき」

「じゃあ言つな！！」

「とりあえず時計台の前で待ち合わせな、俺彼氏の役やるからお前彼女の役な」

「だから先行くなよ！まあやるけどな！！」

あつ、ゴメン。待った？」

「大丈夫。俺はお前の後を付いてきていただけだから」

「ストーカーじゃねえか！俺もまだ来たところだ、だろ？」

「俺もまだ来たところだ」

「ねえ、どこ行くの？」

「お前はまずトイレだな」

「下痢じゃねえよ！！」

「じゃあ公園の茂みだな」

「だから下痢じゃねえよ！！」

「じゃあ電柱か」

「犬でもねえし便意はねえーって言ってんだろ！！」

「じゃあレストランにでも行くか？」

「そうだよ、そういうのを待っていたんだよ」

「すみませんウェイターさん、化粧室ってどこですか？」

「だからトイレじゃねえよ！！トイレ引っ張りすぎだろ！！」

「で、次どこに行こうかな」

「レストランスルーかよ！！トイレだけの為だけにレストラン寄ったのかよ！！」

「俺の残金500円」

「デートする気ゼロかよ…！もうお前とはやっつてらんねーよ…！」

「じゃあトイレ行くか？」

「行かねえ！」

「…まじりか…」「まじりか…」「まじりか…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6904z/>

The 漫才

2011年12月25日01時51分発行